【別添2】（様式例2）

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐南工業高等学校

学校番号	10

Ⅰ 自己評価

1 学校教育目標	1 校訓「創意実践」のもと、知・徳・体の調和を目指し、心豊かで、創造力・実践力のある産業人を育成します。 2 全ての教育活動を通して「自立力」「共生力」「自己実現力」をバランス良く身に付けた人づくりを目指します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・主体的に行動し責任を持ち、基礎・基本を身に付けた生徒 ・自己の役割を認識し、周囲と協力し、工業の発展のために積極的に自己の能力を生かそうとする生徒 ・規範意識・倫理観・創造力・実践力等、職業人として必要な資質を身に付け、工業技術を活用し社会に貢献する生徒	・産業界との連携や課題研究等を通し主体的に学び続ける力、課題解決能力、職業人として必要な資質や能力を育成 ・ものづくりや資格取得、各種コンテストへの参加から、知識・技能を習得、社会人基礎力を身に付けた人材を育成 ・学校行事や部活動及び生徒会活動から心身の健全な発育、仲間意識、責任と規律を重んずる態度を育成	・興味・関心を持ち、専門的な知識と高度な技術の修得に誠実に取り組み、地域産業の発展を支える人材になるという意欲のある生徒 ・多様な人々とのつながりを大切にし、他者と協働し目標に向け努力する生徒 ・高校生活に明確な目標を持ち、学習だけでなく資格取得や部活動にも意欲的に取り組むことができる生徒

3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	『生徒対象アンケート結果』 下記の（1）～（4）の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 （1）「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」 92%(R2) →93%(R3) →91%(R4) →98%(R5) （2）「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い」 91%(R2) →94%(R3) →91%(R4) →98%(R5) （3）「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」 80%(R2) →89%(R3) →85%(R4) →82%(R5) （4）「本校の先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」 81%(R2) →86%(R3) →82%(R4) →86.9%(R5) ・上記は授業に関する生徒アンケートの4年間の推移である。全体的に8割以上の肯定的な回答が得られた。コロナからの制限解除により、生徒と教員により密接した指導ができるようになり、それを多くの生徒が好意的に受け止めている状況が読み取れる。 『保護者対象アンケート結果』 下記の（1）～（4）の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 （1）「職員は、学校経営や教育活動に熱心に取り組み、魅力ある学校づくりの意気込みが感じられる」 87%(R2) →89%(R3) →82%(R4) →96%(R5) （2）「教職員は授業を通して、学力が向上するように指導している」 84%(R2) →86%(R3) →79%(R4) →87%(R5) （3）「学校はICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などにより、生徒の理解を高めようと努力している」 79%(R2) →84%(R3) →69%(R4) →80%(R5) （4）「授業や家庭学習への指導・支援を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」 71%(R2) →86%(R3) →73%(R4) →89%(R5) ・上記は授業に関する保護者アンケートの4年間の推移である。生徒の回答路

	同様にコロナからの制限解除により、学習活動と言語活動との密接な関連を図るとともに保護者の方にも理解が得られるようになったのではないか。また、ここ数年で教育のICT化が進み、各授業においてもわかりやすい授業展開がされた。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人に主体的な学習を促し、将来に繋がる基礎学力の定着。
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・総務部、工業部、進路指導部、生徒指導部が連携し推進する。

7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1)ICTを活用した授業の実践・研究する。 (2)公開授業や職員研修会などにより、職員同士が学び合い、指導力の向上を図る。 (3)全職員の共通理解のもと、規律ある授業で学力向上を推進する。 (4)外部活力を活用したキャリア教育を充実させ、進路希望に応じた進路指導を行う。	①生徒による授業評価の結果 ②生徒・保護者のアンケート結果 ③基礎力テストの結果と分析 ④研究授業・公開授業の教員間評価や感想 ⑤研究授業・公開授業・職員研修の実施件数

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評 価
(1)朝学習を年間通して実施するとともに、学び直し学習会による個別指導を実施した。	①生徒による授業評価の結果が向上したか。	Ⓐ B C D
(2)生徒の実態を踏まえた上で、進路実現に適する学習教材を研究し、検討・選定を行った。	②生徒を対象とするアンケートの結果が向上したか。	Ⓐ B C D
(3)積極的なICT機器の活用に向け、環境整備とともに職員研修の充実に努めた。	③保護者を対象とするアンケートの結果が向上したか。	Ⓐ B C D
(4)「文化祭」などにおいて、本校の学習に関する教育活動を評価する機会を設定した。	④進路実現のための授業展開がされ、充実しているか。	Ⓐ B C D

12 成果課題		総合評価
	○朝学習や学習会における基礎学力の指導補助を実施することにより、学習意欲の改善を図ることができた。普段の学習内容の理解を向上させるためには、基礎的・基本的な知識と技能の習得を図るとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力や判断力の育成が必要で、生徒に身に付けさせたい力を各教科において明確にし、授業改善が必要。 ○工業高校の特色である実践的、体験的な学習活動を通し課題解決力の向上とともに、地域産業を支え社会に貢献しようと主体的、協働的に取り組む姿勢を育成する教育に外部から高い評価を得た。 ▲GIGAスクール構想により、授業についていけない生徒に対して、授業動画の配信を実施し、学び直しに役立てることも今後は必要である。	A Ⓑ C D

13 来年度に向けての改善方策案

(1)学習評価を生かした授業改善

学習指導要領の改訂が年次進行で進み、現1・2年生に於いて3要素である観点別評価が行われるようになった。3観点に沿った目標設定と指導と評価の計画が明確になり、生徒に身に付けさせたい力に近づくよう授業改善を図り、教科ごとの単元の横のつながりや、他教科の学習内容のつながりを検討する必要がある。

(2)外部の教育力の活用

「楽しい」と実感できる学校であるとともに、好奇心や探究心が豊かな人材育成を図る必要があるが、社会で展開される技術革新が速く、専門的な知識や技術の学びを教員だけで担うことが困難となっている。企業や大学などと連携し、実情に合わせた学びを取り入れ、地域の求める人材育成をしていくことが必要である。

3 評価する領域・分野	◇生徒指導(含む教育相談)
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	『生徒対象アンケート結果』 下記の(1)～(4)の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 (1)「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」 84%(R2) →91%(R3)→86%(R4) →86%(R5) (2)「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身につけさせようと努めている」 93%(R2)→95%(R3)→94%(R4) →95%(R5) (3)「本校の生徒は、誰に対しても自然に挨拶が出来る」

	87%(R2) →91%(R3)→91%(R4) →87%(R5) ・上記は生徒指導に関する生徒アンケートの推移である。コロナ禍で、心に不安や悩みを持つ生徒が増えており、本年度は特に教育相談の対応に力を入れてきたが、さらに強化する必要がある。また、本校の美点の一つであった元気な挨拶が停滞している点について、実業高校として改善していく必要がある。 『保護者対象アンケート結果』 下記の(1)～(3)の各問に「あてはまる」と回答した保護者の割合 (1)「学校では、個々の生徒の相談に丁寧に応じている」 85%(R2) →86%(R3) →76%(R4) →83%(R5) (2)「学校は、高校生としてのマナーや社会規範を身につけさせる指導を行っている」 92%(R2) →96%(R3) →89%(R4) →94%(R5) ・上記は生徒指導に関する保護者アンケートの推移である。学校内で行われている指導について、その様子が「わからない」と回答する保護者が多く、保護者への情報提供を丁寧に行わなくてはならない。生徒のアンケートと同じく、マナーや社会規範を身に付けさせる指導や身だしなみ指導に理解をいただいている。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	具体的目標 ◇(1)時を守り (2)身をただし (3)元気にあいさつ (1)遅刻の減少→社会人基礎力の育成、交通事故の減少 (2)身だしなみ指導→社会人基礎力の育成、規範意識の向上 (3)元気にあいさつ→コミュニケーション能力の向上と生徒理解・相互理解 ◇教育相談の充実
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導部、教務部、工業部、進路指導部が連携し全教職員で推進する。

7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1)登校時の交通安全指導や遅刻の防止、日常的な身だしなみの指導を行う。 (2)教育相談(特別支援等)の研修を行う。 (3)ホームページや学校メール等を活用し、保護者に情報提供をするとともに、理解を促し協力支援に繋げる。	①過去の統計との比較と分析 ②教育相談的指導の改善 (いじめ・不登校等への早期対応) ③指導生徒の充実と改善(身だしなみ、遅刻、欠席)

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評 価
(1)遅刻指導は「遅刻改善用紙」や「生活改善用紙」を用い、遅刻原因の分析と生活習慣改善を促した。	①遅刻者数は減少したか。	A Ⓑ C D
(2)マナーアップウィークを設定し、授業中の規範意識や挨拶等の取り組み姿勢とマナーの向上を目指し、全校体制(生活委員・教科担任)で取り組んだ。	②落ち着いた雰囲気で、朝のスタートや授業の開始・終了を迎えることができたか。	Ⓐ B C D
(3)頭髪指導の基準について、主に就職先企業の採用人事担当者の意見を参考にしながら、生徒会や保護者と連携・協力し、時代に即した校則の見直しを継続している。	③校則について外部の意見を取入れて、検討できたか。	Ⓐ B C D
(4)スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー事業を積極的に活用し、欠席者に対する対応方法を教育相談室、保健室、図書室と連携をとり、支援が必要な生徒への早期対応を行った。	④スクールカウンセラーとともに組織的な生徒サポートができたか。	Ⓐ B C D

12 成果・課題	総合評価
△コロナ禍のため例年との単純な比較はできないが、遅刻者数の減少に向けて取り組んだ。遅刻は交通事故とも密接な関連があることに注意を払い、基本的生活習慣と絡めて担任・学科、生徒指導部で連携を取りながら組織的な対応に取り組んだ。しかし、残念ながら一部でコロナ禍慣れして、欠席・遅刻などの基本的生活習慣が乱れ、生活態度がルーズになる生徒が見られた。また、9月以降、長期休暇明けの切り替えができずに生活リズムを崩してしまう生徒が見られ、遅刻数が増大した。この遅刻状況について、毎月の職員会議で報告することに努め、生徒指導部・学科・担任が共通認識の上で「遅刻総数減少」に向けて呼びかけ指導を実践し、遅刻数が増大する傾向にある12・1月は例年と比べると減少傾向にあったと言える。しかし、遅刻者数と交通事故件数は一定の関係で連動しているた	A Ⓑ C D

め、日頃から注意力に課題のある生徒を含め、交通事故の防止に向けた全校体制による交通安全指導を機会あるごとに実施して、遅刻防止の指導を継続させなければならない。この遅刻防止と交通安全指導は、毎日の指導の積み重ねと規則正しい生活習慣の確立が重要であり、例えば日々刻々と変化する天候に対し、翌日の登校計画をどのように立てて実践するか、時間に余裕を持って登校するには何に注意を払うべきかなど、自らの行動を律しながら計画に従って遂行できる力を育成していくことが課題である。

なお、交通ルールやマナーの向上を含め、特に交通事故が心配される4月に登下校時の注意と指導を全校集会にて実施し、さらに5月には外部講師を招いた交通講話を実施した。また、年4回実施する交通安全校外指導では、MSリーダーズ(約290名)や生徒会執行部との連携を図りながら、ヘルメット着用の呼びかけと交通安全啓発活動を岐阜南警察署と連携して行うことで、より一層、規範意識の向上に努めることができた。

〇頭髪の在り方について、本校へ求人活動で来校された企業の採用人事担当者から意見を取り入れ、その上で、「岐南エフォーラム」を開催して、生徒・保護者・教職員とで規定や方針を定めることができている。

また、その内容についてはホームページに掲載し、周知を図っているところである。本校の校則で定める細かな頭髪の規定は、合格者説明会や入学式でも丁寧に説明しており、この頭髪規定に関するトラブル等の事例はない。

▲多くの先生方による登校時の挨拶運動や、マナーアップキャンペーンによって、授業開始・終了時の挨拶の励行をした。コロナ禍以降、マスクを着用しての学校生活により、本校の美点のひとつでもあった「元気な挨拶」が停滞気味であることが非常に心配である。

〇教育相談は、SOSの出し方に関する教育の実施やケース会議の開催など、多くの先生方の協力により機能している。また、スクールカウンセラーと教育相談担当との連携により、心身に不安を抱える生徒の支援に大変大きな成果があった。欠席がちな生徒の再登校支援につながった好例もあった。

13 来年度に向けての改善方策案

（1）交通事故件数の減少

命に関わる大切な指導であるため、交通事故への危険予知動画や自転車運転のマナーについての題材を積極的に取り入れ、入学当初よりLHR等を活用して実施していきたい。また、「情報モラル」に関する指導は、Webや動画、学習用資料を用いた継続的な学習会を実施し、より効果的な指導方法について確立していきたい。

（2）コロナ禍以降の遅刻や欠席に対する意識の低下への対応

マナーアップウィーク等の実施、5分前着席の指導徹底により、遅刻や身だしなみについての規範意識を高め、規律正しい生活習慣の確立と定着を図る。

（3）教育相談の充実

いじめや不登校等の早期発見・早期対応を心がけ、事後の対応についても、スクールカウンセラーやSSW等を活用し、教育相談の充実や教職員間の連携を密にして情報共有に努める。

3 評価する領域・分野	◇進路指導
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	『生徒対象アンケート結果』 下記の（1）～（3）の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 （1）「本校では、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」 90%(R2) →94%(R3) →89%(R4) →92%(R5) （2）「本校では、生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」 87%(R2) →94%(R3) →89%(R4) →93%(R5) （3）「本校では、マナーやコミュニケーション能力を高め、産業人としての資質を養う指導がなされている」 83%(R2) →91%(R3) →87%(R4) →89%(R5) ・上記は、進路に関する生徒アンケートの5年間の推移である。アンケート結果では概ね9割に近い肯定的な回答が得られている。コロナの影響もほぼなくなり、以前の活動状況に戻ったが、生徒を取り巻く環境は大きく変わった。それぞれの生徒に寄り添った、キャリア教育の充実が求められている。 『保護者対象アンケート結果』 下記の（1）～（3）の各問に「あてはまる」と回答した保護者の割合 （1）「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設

	けている」 78%(R2) →81%(R3) →79%(R4) →93%(R5) (2)「学校は、生徒の進路に沿った適切なアドバイスをしてくれる」 76%(R2) →82%(R3) →79%(R4) →93%(R5) (3)「学校では、マナーやコミュニケーション能力を高め、産業人としての資質を養う指導がなされている」 87%(R2) →90%(R3) →89%(R4) →91%(R5) ・上記は、進路に関する保護者アンケートの5年間の推移である。今年度はコロナの影響もほぼなくなり、以前の様に対面にて進路に関するガイダンス、企業訪問、企業見学等が実施できた。今後も更に保護者、生徒への進路情報提供及び指導を丁寧に進めたい。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・社会人基礎力を身につけた地域社会を担う産業人の育成
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部、教務部、工業部、生徒指導部、学年会が連携し全教職員で推進する。

7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1)外部活力の積極的な活用 (2)1年生から進路目標を明確にし、各学年の発達段階に応じた内容を検討して進路ガイダンス等の実施 (3)総務部と連携し、協働学習を意識した授業の推進	①基礎学力診断テストの結果 ②全職員による朝学習の取り組み達成度 ③学び直し学習のために、Webを介した学習教材を導入し実施 ④昨年度の統計との検証

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評 価
(1)各学年において、重点目標を定め、目標に向けて進路ガイダンス等を実施した。 (2)インターンシップ(2年生全員3日間)の実施 (3)外部の教育力活用による研修、講話及び企業見学の等実施 (4)大学などの進学者へ学力向上に向けた取り組みの実施	①朝学習の到達度 ②基礎力テストの結果 ③各学年重点目標の達成度 ④課題の進捗状況、達成度	A Ⓑ C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D

12 成果・課題		総合評価
	○就職希望者の一般企業の内定率は、今年度も100%を達成することができた。また、国公立大学、難易度の高い公務員に合格できた。 ○就職、進学とも不合格となった生徒は数名であった。 ○コロナの影響もほとんどなくなり対面にて、インターンシップ、企業見学、卒業生と語る会、コミュニケーション向上研修、各種講習会、進路講話等を実施し、進路支援の継続的な取組ができた。 ▲本校の進学者の大半は一般入試でなく、学校推薦型又は総合型選抜である。また、今年度の進学者は42%(昨年度31%)と進学希望者が増加している。学力の定着に取り組むために、大学などの進学先に対応したカリキュラムの編成や、Webを介した学習教材の導入などを行っているが心配な面がある。推薦入学等を希望する生徒には、基礎力テスト、各種検査の結果と合わせて、各生徒に応じた指導を行いたい。	A Ⓑ C D

13 来年度に向けての改善方策案

(1)早期から進路希望先を考えさせ、確実に進路実現をするために、より一層、生徒一人一人が自らの学習状況やキャリア形成を見通すことができ、振り返ることもできる働きかけを研究する。

(2)全職員で就職・進学指導ができるよう、企業及び上位学校の研究などを通してキャリア教育に関する職員研修の充実を図る。

(3)進学者に対して、進学先の学校が求める人物像及び知識・技能を確実に身につけさせ、入試条件に合致できる学力の指導と実績が残せる活動の指導を合わせた進路指導の在り方を研究する。